

平成25年度事業報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

公益社団法人日本馬術連盟（J E F）は、平成25年3月6日の平成24年度第7回定例理事会において承認された平成25年度の事業計画及び収支予算に基づき、理事会の決定・承認のもとに以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

平成25年度最大の関心事であった2020東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会の招致が決定した。我が国馬術界の悲願であるメダル獲得に向け、J E Fとして選手強化と施設運営の両面から準備を進めるため、2020東京オリンピック選手強化対策プロジェクトと2020東京オリンピック開催準備対策プロジェクトを設置した。

平成25年度は、来年度以降に開催される世界馬術選手権大会（2014/ノルマンディー）、第17回アジア競技大会（2014/仁川）及び第31回オリンピック競技大会（2016/リオデジャネイロ）を見据えて競技力の向上と強化を図ること、及び国内の競技力を強化するため、馬場馬術及び総合馬術の国際馬術連盟（F E I）公認のスリースター競技会等を主催することが主な事業であった。

第2回サマーユースオリンピック競技大会（2014/南京）の国内予選において優勝した藤原彩香選手がアジア代表枠を獲得した。藤原彩香選手を日本代表選手として公益財団法人日本オリンピック委員会に推薦した。

2014世界馬術選手権の出場資格の取得に向けて、当連盟はJ R A特別振興資金助成事業を活用しC D I 3 ☆（2回）とC I C 2 ☆を主催したが、C D I 3 ☆において北井裕子選手&ゴールデンコイン4号が規定の基準を2回クリアし、世界選手権出場基準を満たした。

馬術競技を幅広く普及するため、試行的にインターネットを活用した馬術大会のL I V E放映を6回実施し、多くの馬術ファンが視聴し好評であった。

なお、当連盟理事が、青森県体育協会の補助金不正受給に関わっていたことから、会員資格を1年間停止し、理事職を解任した。

また、当連盟公認の馬術競技会において、競技会規程及び会員倫理規程に違反する行為があり、2名の審判員資格を6か月停止した。再発防止のため、審判員講習会等を通じて競技会規程の遵守の啓蒙等を実施した。

各事業については、以下のとおり；

1. 馬術の普及・振興

(1) 馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイトを運営し、競技会の情報や規程の改正などの情報を迅速に広報した。
- ② 競技会の実施要項や成績速報、講習会の案内などを迅速に掲載するとともに、『馬術情報』とウェブサイトをリンクして広報の充実を図った。
- ③ 試行的に馬術大会のインターネット動画配信を6回実施した。御殿場市馬術・スポーツセンター、山梨県馬術競技場、三木ホースランドパーク及びJRA馬事公苑のいずれの競技場においても動画配信が可能であり、アクセス合計は、13,900回であった。

(2) 機関誌発行

- ① 情報を的確に伝達し、馬術の振興及び各種記録の保存に資するため、月刊機関誌『馬術情報』を刊行した。
- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、購読希望者に対し頒布した。

(3) 馬術関係資料の作成・配布

- ① 各種規程集及び日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。また、競技会プログラムにもルール解説を掲載し、競技場にて配布した。
- ② マスメディアに対し情報を積極的に提供した。特に、朝日新聞、山梨日日新聞、山梨放送、静岡新聞、静岡放送及び神戸新聞社には大会の後援を依頼し、広報を充実させた。また、NHKの全日本障害馬術大会パートI放映に協力した。

(4) 各種表彰

- ① 永年に亘り馬術界に功績のあった人馬5名28頭を表彰した。また、国内外競技会において、優秀な成績を収めた人馬4名10頭を表彰した。
- ② 競技馬の資質向上のため、優秀な成績を収めた乗馬に対して飼育奨励金を交付した。
- ③ 競技馬の資源確保及び調教技術向上を図るため、優秀な成績を収めた内国産馬（元競走馬を含む。）に対して飼育奨励金を交付した。
- ④ 優秀な成績を収めた内国産乗用馬の生産者に対して感謝状を贈呈した。

(5) 馬術基盤の維持拡大

- ① 組成団体に対しその加盟する団体が所有する馬匹について、飼育費助成及び優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟及び組成団体等の事業費・事務費の助成を行った。

- ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
- ③ 内国産馬の振興を図るため、内国産馬限定競技を主催競技会に組み入れるなど、内国産馬の活用を促進した。

2. 会員と乗馬の登録

- ① 選手や指導者あるいは団体の活動をサポートするため、会員（個人 6,251、県馬連所属団体 363、組成団体所属団体 265）及び乗馬（3,755）の登録を行った。
- ② F E I 公認競技会に参加する人馬及び競技役員の F E I 登録事務を実施した。
- ③ 「J E F 情報システム」を活用し、登録における会員サービスの向上及び事務の合理化を図った。

3. 競技会規程の制定、各種資格の認定

- (1) N F 活動（National Federation：国内を統括するスポーツ団体）
F E I 及びアジア馬術連盟の活動に参画し、国際情報を迅速に収集するとともに、日本馬術界の国際的地位向上を図るため積極的に発言した。
- (2) 競技会規程の制定・整備
J E F の各種規程の制定及び改廃を行った。また、F E I 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、F E I 規程の国内適用を図った。
- (3) 競技役員資格
 - ① 審判員等技術役員資格者の認定及び資格保持者の技術向上のため講習会（8回）を実施するとともに、都道府県等が開催する講習会（13回）を公認した。
 - ② 障害馬術競技で使用するコースの設計及び設営を担うスペシャリストとしてのコースデザイナー講習会を2回開催し資格を認定した。
 - ③ 国際競技役員養成のための F E I 公認講習会（2回）を開催した。
- (4) 指導者資格
 - ① 日本体育協会公認スポーツ指導者
公益財団法人日本体育協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムによる日体協公認馬術コーチ養成専門科目講習会を開催し、馬術に特化した馬術コーチ・指導員の増員を図った。
 - ② 日本馬術連盟認定馬術指導者（準コーチ）
馬術指導者の資格認定・更新並びに専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムによる J E F 準コーチ養成講習会を開催し、指導者（45

名)の増員を図った。

(5) 選手の資格認定

主催競技会、公認競技会及び国際競技会参加のための騎乗者の資格認定・登録を行った(A級48名、B級397名、C級93名)。

都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための講習会(B級22回、C級25回)を規程に基づいて公認した。

(6) 競技会の公認

JEF公認競技会のカテゴリー制・馬のグレード制を円滑に運営し、活性化に努めた(障害102、馬場58、総合6、エンデュランス18、合計184)。

4. 選手の強化

① 騎乗・調教技術の向上を図るため、海外からコーチを招聘して強化訓練を実施した(障害1、馬場1、総合3)。

② 文部科学省が進めるナショナルトレーニングセンター中核拠点施設整備の馬術競技強化拠点として御殿場市馬術・スポーツセンターを活用した(35回、うちJEF13回)。

③ 国際レベルの選手を育成するため、ヤング・ジュニア層の発掘及び強化のため研修会を9回開催するとともに、海外の競技会・強化訓練等に若手選手を派遣した(障害2、馬場2、総合2)。

④ 優秀な成績を上げた選手をナショナルチームメンバーに認定した(障害7人馬・プログレス19人・プログレスジュニア19人、馬場2人馬・プログレス39人馬・プログレスジュニア18人馬、総合8人・プログレス12人・プログレスジュニア12人)。

⑤ また、ジュニアアスリート担当のJOC専任コーチングディレクターを2名(馬場1、総合1)設置し、将来を担う若手の育成を図った。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

全日本障害馬術大会(パートI、パートII、ジュニア)、全日本馬場馬術大会(パートI、パートII、ジュニア)、全日本総合馬術大会(パートI、ヤング、ジュニア)及び全日本エンデュランス馬術大会を主催した。また、障害馬術・馬場馬術の全日本ジュニア及び全日本ヤング総合馬術大会はJOCジュニアオリンピックカップ大会として主催した。

(2) 国民体育大会の共催

第68回国民体育大会馬術競技(東京都あきる野市)を文部科学省他の団体と

ともに主催した。

(3) F E I 公認競技会

- ① J E F 主催により、F E I 公認馬術大会を7回(チルドレン障害1、馬場2、総合4)開催した。
- ② 日本国内で会員団体が主催するF E I 公認馬術大会14大会(障害7、馬場1、エンデュランス6)の開催を支援した。

(4) ドーピングの防止

- ① 打合せ会等での関係者に対する指導を通じて、馬のドーピング防止に努めた。
- ② 主催競技会(15頭)及びF E I 公認大会(22頭)において馬ドーピング検査を37頭(会員団体実施分4頭を含む。)に実施した。
- ③ 日本アンチ・ドーピング機構(J A D A)と協力して、競技者のドーピング検査を21名に実施した。

6. 国際競技会への派遣・支援

- ① 国際競技会等へ選手・役員を派遣(障害3、馬場1、総合4)し、競技力向上並びに海外情報収集に努め、併せて国際交流・親善を深めた。
- ② 平成25年度は日本リーグ優勝人馬がCSI-W Finalへ参加しなかったため、輸送支援は実施しなかった。
- ③ 世界各国におけるF E I 公認馬術大会に参加する日本選手(障害17名延1、157頭、馬場1名延1頭、総合6名延36頭、エンデュランス3名延6頭)を支援した。
- ④ 国際馬術基盤強化推進支援事業(J R A 特別振興事業)
 - ア. 2014世界馬術選手権の出場資格の取得に向けて、F E I 公認のC D I 3 ☆馬場馬術大会を2回、C I C 2 ☆総合馬術大会を1回開催した。
 - イ. 国内で所定の成績を上げた馬に対する日本からの海外への輸送支援は、該当馬がいなかったため実施しなかった。

(1) 会員登録数

区 分	H25. 3. 31 (A)	入会	退会	H26. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	55	0	0	55	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	4	0	0	4	0	100.00
② 登録会員	7,022	551	694	6,879	△ 143	97.96
イ. 個人	6,380	532	661	6,251	△ 129	97.98
ロ. 県馬連に所属する団体	362	17	16	363	1	100.28
ハ. 組成団体に所属する団体	280	2	17	265	△ 15	94.64
全日本学生馬術連盟	81	1	2	80	△ 1	98.77
全日本高等学校馬術連盟	100	0	9	91	△ 9	91.00
日本乗馬少年団連盟	66	0	2	64	△ 2	96.97
日本社会人団体馬術連盟	33	1	4	30	△ 3	90.91

(2) 乗馬登録数

区 分	H25. 3. 31 (A)	登録	抹消	H26. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,773	567	585	3,755	△ 18	99.52

(3) 平成25年度FEI登録者数

区 分	選手	馬匹
障害馬術	62	122
馬場馬術	39	48
総合馬術	30	50
エンデュランス	18	22
軽乗	1	0
パラ馬術	1	0
計	151	242

(4) 平成25年度FEIパスポート交付・更新数

新規交付	44	(うちマイクロチップ埋込み 3件)
更新	37	
変更	37	
再発行	4	